

# Desert Wind (No. 10)

Las Vegas Japanese Community Church

SEPTEMBER 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集: 平山末樹

『オールイン』

LVJCC 牧師 鶴田健次

ポーカーゲームにオールインというのがあります。それは自分の持ち金のすべてをその勝負に賭けることです。信仰生活において自分の人生を神に賭けるということは、まさにこのオールイン的決断です。しかもその賭けは最初から勝ちが決まっているとすれば、このオールインの信仰こそ自分の持っているものが最高に活かされる道だと言えます。

勝つのが分かっている勝負に、持ち金の10分の一しか賭けないとしたら、それはもったいない話です。勝っても喜びは10分の一です。しかしオールインの勝負で勝てば躍り上がる喜びがあります。それが神に自分のすべてを賭ける人の人生のエキサイトメントです。

この躍り上がる喜びの人生を得るために必要なことは、まず第一に、過去との決別です。つまり、神を無視して生きていた過去と決別し、人生の脚本である聖書に従って人生を歩み始める決断をすることです。言い換えれば、クリスチャンとしての人生を歩み始めるということです。飛行機は地面を走っている時には自由がありませんが、いったん離陸をすると自由に大空を羽ばたくことが出来ます。

同じように、私たちの人生は、この過去との決別を経験するまでは、決して大空を羽ばたくような自由はありません。なぜなら、神を無

視した生活は、罪に支配された、地面を這いずり回るような不自由な生活だからです。してはいけないと知りながら、それをしてしまう。しなければならぬと知りつつ、それをすることが出来ない。人間は本来、この罪の性質にガンジガラメに束縛されながら生きているのです。自分に都合が悪くなれば、すぐに人のせいにし、陰で人の悪口を言い、すぐに愚痴や不平不満を口にします。これはとても不幸な生活態度で、早くそういう生活態度に決別することが大切です。

第二に、クリスチャンとして人生を歩み始めた人はオールイン的信仰の決断をしなければなりません。なぜなら、クリスチャン倫理の基本は、自分自身を神に捧げることだからです。たとえば、あなたは、この三種類の夫婦の中で、どの夫婦の関係を望まれますか？二人とも相手のために命を犠牲に出来る夫婦。片方だけが相手のために命を犠牲に出来る夫婦。二人とも相手のために命を犠牲に出来ない夫婦。もちろん、一番目の夫婦ですね。イエス様は、まずあなたのためにオールインの決断をし、十字架にかかれたのです。それは、あなたが自分の罪のためにそのままでは永遠に滅びてしまうからでした。しかし、イエス様はあなたをご自分の命以上に愛し、あなたの身代わりとなって十字架で死なれたのです。あなたは、その事実を聖書を通して知ることが出来ました。さてあなたは、その事実が分かった時、

そのイエス様に対してどうあろうと思われませんか？

第三に、躍り上がる喜びの人生を得るために必要なことは、新しいスタートを切ることです。使徒パウロは、私たちクリスチャンに『心の一新によって自分を変えなさい』と勧めています。これは、心を変えることによって自分を変えなさいということです。この変えなさいという言葉は、言語のギリシャ語では『メタモルファー』という言葉ですが、これは、さなぎが美しい蝶に変わるときの変化を指している言葉です。醜いさなぎ、別名イモムシと言いますが、このイモムシは地面を這い回ることしか出来ません。ところがこのイモムシが美しい蝶に変わると大空を自由に飛び回るようになります。障害物に会うたびに進む道を変えていたイモムシが、蝶になったとたん、障害物を飛び越えて新しい世界に進んで行くように、罪に支配された古い価値観と古い世界観の中に生きていたときは、人生の困難を、避けて通るべき障害物だと思っていた自分が、キリストによって新しく造りかえられ、新しい価値観と新しい世界観によって生きる者とされたとき、もはや人生の困難は、自分を人生の次のステージに運ぶための大切なステップであることが分かるようになります。これが新しいスタートをきるということです。

証し

江橋津世

主の導き御名を崇めます。

半世紀以上も前のことですが、当時小学生だった私は、日曜日の夕方になると我家の前の国道を笑顔で手を振って通過される車のお人に、最初は恥じらいながら、その内、手を振って応えることが楽しいことになっていました。

やがて、近隣の町、村が合併した中学へ通うことになり、新しいクラスメートのお姉さんに誘われ、英語の発音を教わりに行った場所がキリスト教会で、そこで偶然にも、毎週笑顔で手を振って下さっていたアメリカさんが実はその教会の牧師さんだったことを知りました。

しばらくして後、牧師ご夫妻が他県へ赴任され、同時に私は教会とも疎遠になっていました。そして高校生になった私は和歌山県で寮生活を送っていました。ある日の日曜、ふらりとその町の教会へ出掛け、そこで何と小学校の頃無心に手を振って応え、中学生当時の英語を教わったあの牧師先生にお会いしたのです。

再会を大いに喜んだものの、牧師ご夫妻はまだどこかの教会へ赴かれましたが、私の高校卒業後の進路は、牧師先生のご紹介で、東京・渋谷の「児童福音伝道協会」でした。毎朝、目覚めのお祈りに始まり、食事時は勿論のこと夜には一日を神様に感謝して眠りにつくという日々で、日曜日は礼拝に出席の後、渋谷から電車を乗り継ぎ、練馬区にある教会で小さい人達の為にオルガンを弾き賛美歌と一緒に歌って主を賛美していました。そのような穏やかな日々の中にあって、「児童福音伝道協会」内の図書館が手狭となり、埼玉県新所沢に転居する事が決まり、その時以来何故か私は東京に残り、神様に背信の教会とは無縁の人生が始まったのです。そして20代後半にイタリアへ留学し、カトリック人口が多い当地で自分の持つ宗教を問われる度に「実は仏教だけど私はキリスト教」などと曖昧な返答をしていました。

イエス様のご生誕と復活がよく理解出来ずにノンクリスチャンのままでしたが、そんな中に

あっても、毎年クリスマスが近づくと必ず「もろびとこぞりて♪」と歌っていましたが、「主の祈り」を口ずさんでいる自分がいました。そして病弱だった独身の私は、父親の了解を得て、実家の先祖代々仏教のお墓に入らないからと、富士山の麓に自分の死に備えて墓を求めたのもこの頃でした。

神様の存在が特別な尊いことと感じていた私は其の後、縁あって結婚する段になり「神様に誓えないから披露宴だけにしよう」と夫に哀願し、その結婚生活が今に至っています。そして、これ迄何度か生命の危機に遭ったことも、亦病気が悪化して、二度も倒れながら後遺症もなく、その度に神様に助けて頂いたと自覚していましたが、ある時ハッと気付かされました。神様は遠大なご計画で私をこのまま滅びの世界へ行かせたくないとお計らいなのだ、だから受洗を決意するまでは、私は簡単に死ねない、つまり死なないのです。何という神様の偉大なご愛でしょうか。拙宅のコミュニティで敬虔なクリスチャンの Norman ご夫妻からご親切を受け、亦、言動に共鳴し、そして教会へと導かれました。鶴田牧師先生の微に入り細にわたる入門クラスのご指導を受け、私の今迄の疑問点が払拭され、喜んでキリスト・イエスを信じ受け入れる信仰告白を致しました。それは始めて教会へ足を踏み入れて、五十年目のことでした。信仰告白をした夜、私はこれ迄のありとあらゆる罪が夢の中で示され、一晩中一睡もしなかったと思える程に長く、自分の罪を悔い改めていました。

神様は全てをご存知なのだ、そして遂に私のような不遜な者にもパプテスマを授けて頂く機会を賜ったのでした。当日は感激に打ち震えながら、今後は聖霊の実を結ぶことが出来るような日々でありたいと願っていました。

世間に対して、良い行いが出来ない凡人などと思っていた私でしたが「わたしたちは神の作品であって、良い行いをするようにキリスト・イエスにあって造られたのである」の御言によって勇気を頂き、神様を仰ぎ見て、これからの信仰生涯が、本当に楽しい聖書の学びに加え、福音を宣べ伝えることが大事なことと思えるに至っています。

神様！私をクリスチャンにして下さって、本当に有難う存じます。心から感謝申し上げます。

## 案内・ニュース

- ・ 8月は3名の方が洗礼を受けられました。荒井寛子姉、坂東一郎兄、坂東美枝子姉の新しいクリスチャンとしての歩みが豊かに祝福されますように。
- ・ 新しい教会の場所を探しています。少なくとも2500~3000SQFT のスペースが必要です。どうぞ、この事のために皆さんが祈り、情報を集めて下さい。主の御用が制限をされることのないよう、信仰をもって進みましょう。
- ・ 9月から牧会者養成クラスが始まります。学びをされる末広和美姉のためにお祈り下さい。
- ・ 9月29日(土)の11:00AM より教会ピクニックがございます。神の家族同士の交わりのために、また新しい方々との親交のために、楽しい時を持ちましょう。

## DREAMS COME TRUE

- ☆ 教会堂の建設
- ☆ 敬老ホームの設立
- ☆ 幼稚園の設立

